

第三章 その他

第1節 参考資料

1 おおつ健康フェスティバル

高齢社会を迎えた今日、健康で生きがいをもって、人生を豊かに自分らしく、明るく暮らすことができる地域社会を実現するため、市民一人ひとりが健康を振り返り、あるいは体験を通して健康づくりを見直すきっかけとなることを目的として、平成3年から毎年実施している。

- (1) 日 時 平成29年10月15日(日) 10時～15時
- (2) テーマ みんなで広げよう食育の輪 ～げんきに・たのしく・おいしく～
健康 環境 伝統
- (3) 主催 おおつ健康フェスティバル実行委員会
- (4) 場 所 明日都浜大津

(5) 内 容

- ・健康ウォーク（雨天により中止）
- ・式典、スタンプラリー
- ・ステージイベント
 - ・オープニングステージ 出演：琉球國祭り太鼓
 - ・食育トークショー「楽しい食卓 かの子にまかしとき！」 出演：西川かの子
 - ・食育ステージショー「みんなで食育ひろば」
 - ①ミニミニ食育講座 出演：小澤恵子（滋賀県立大学准教授）
 - ②食育活動発表 出演：滋賀短 Kids 大津市健康推進連絡協議会
 - ③語り継ぎたい宝物ーふなずしと健康ー 出演：井上裕子（(有)至誠庵代表取締役）
コメンテーター：小澤恵子、有村哲郎（大津市医師会/JCHO 滋賀病院副院長）
- ・事業内容
食育推進の啓発、がん予防、高齢者の栄養管理、生活習慣病予防、糖尿病予防、歯の健康フェア、簡易血液測定、もの忘れ相談、メンタルヘルス、体組成測定、CKD啓発、体力測定、骨密度測定、簡易貧血検査、介護予防、マッサージ体験、自助具啓発、健康フードの展示、栄養相談、手洗いチェック、AED体験、健康入浴啓発・毛髪診断



健康おおつ21シンボルマーク
おおつ げんき丸

2 研究および外部での講演等の報告

【研究報告】

タイトル	入退院支援における病院と介護支援専門員の連携について ～入退院支援ルールへの運用状況と今後の課題～
報告学会名	第55回近畿公衆衛生学会
発表者名	○坂口和代（保健総務課） 藤本亜由美（膳所すこやか相談所） 中村由紀子（大津市保健所）中村恭子（滋賀県医療福祉推進課） 角野文彦（滋賀県健康医療福祉部）
<p><要旨></p> <p>医療機能の分化と連携が進められる中、改めて入退院支援が重要視されている。本市においては入退院支援ルールを策定し、運用してから約1年半が経過した。入退院支援ルール運用後の連携状況について、病院及びケアマネに実施した調査結果について報告した。</p> <p>入退院支援ルール運用と併せ、退院支援に関連した診療報酬改定もあり、特に病院における入退院支援の早期からの連携の必要性の認識、ケアマネの情報の重要性の認識は高まってきているが、すでに院内ルールを構築している病院における入退院支援ルールの浸透については、院内ルールとの連動が課題であることが明らかになった。ケアマネにおいても病院との連携頻度が高まっており、双方にとって効果的なものであると考える。</p> <p>今後の課題としては、効果的なタイミングで情報共有を行うこと、引き続きケアマネや病院看護師全体への浸透を図ることが、入退院支援の質の向上につながると考える。</p> <p>急性期病院で、入退院支援の体制強化が進められている中、連携の意識も高まり、機会も増加してきているが、連携状況の評価と病院とケアマネの情報交換会を継続的に実施し、相互理解と効果的な入退院支援ルールのあり方の検討実施、質の向上を図る。</p>	

タイトル	大津市「いのちをつなぐ相談員」派遣事業について（第4報） ～救急告示病院と連携した事業から地域包括ケアシステム構築に向けて～
報告学会名	第48回滋賀県公衆衛生学会
発表者名	保健予防課 ○中村瑞枝、奥田由子、鈴木真智子、西尾加代、中島美和、 池田守紀栄、白子京弥、鳴海千秋、大津市保健所 中村由紀子
<p><要旨></p> <p>自殺未遂者支援「いのちをつなぐ相談員」派遣事業は、平成25年度より開始し、2年間のモデル事業経て5年目を迎えた。支援を通して、支援チームの中では未遂者の背景に対するアセスメントが強化されたり、支援者が別ケースを支援する際に支援方法が活かされることにつながった。また、地域で支えてくださる民生委員にも関わりを持っていただくことが未遂者を含めた精神障害者を支える地域ケアシステムの構築に繋がると考える。</p>	

タイトル	選択増菌培地を使用した糞便からのサルモネラ属菌の検出事例について
報告学会名	第48回滋賀県公衆衛生学会
発表者名	衛生課 ○佐々木雄一、野坂紘子、大倉達哉、小椋容子、井上敏、 大津市保健所 中村由紀子
<p><要旨></p> <p>市内食中毒患者便からサルモネラ菌が検出された。検査において選択増菌培地の種類により、糞便からのサルモネラ菌の検出状況に違いが見られた。具体的にはRV培地とTT培地でサルモネラ菌の検出率が大きく異なり、単独の選択増菌培地を使用していた場合、検体からサルモネラ属菌が検出できなかった可能性があった。検出率向上のため、2種類以上の選択増菌培地を併用することが有効であると考えられる。</p>	

タイトル	外部団体等との連携による公衆衛生行政の推進について
報告学会名	第76回日本公衆衛生学会
発表者名	衛生課 ○柿谷康仁、大津市保健所 中村由紀子
<p><要旨></p> <p>行政機関が担う業務の事業効率向上と波及効果増大を図るために、食の安全・安心分野において各種専門機関や団体等と連携を図り協働・共催による事業を推進した。保健衛生分野には公益を目的とした多くの団体が存在していることから、これら団体と連携・協働による事業展開を行うことにより、食の安全・安心に留まらず、地域における公衆衛生行政全体のサービスの向上につながるものとする。</p>	

タイトル	妊娠期にある母親への参加型健康支援教育に関する研究（第1報） —大津市妊婦健康教室の経過と方向性—
報告学会名	第48回滋賀県公衆衛生学会
発表者名	○白石智子1)、岡野久美子1)、北村敦1)、荒川遥1)、古川洋子2) 原田真弓3)、田邊紗世3)、廣瀬明日香3)、淵元純子4) 1)健康推進課、2)滋賀県立大学、3)中すこやか相談所、 4)ふちもと助産院
<p><要旨></p> <p>集団の健康教育をより効果的なものとするため、妊婦のつどい及びはじめてのパパママ教室のアンケート調査、近郊産科医療機関の妊婦健康教育の内容把握と分析を行った。参加者の参加目的は友達作りより、知識や情報を求めての参加が増加し、医療機関での健康教育は妊娠期に関する内容が多くを占めていた。産後の生活にイメージを持つことができるよう、教室の目的や内容の検討、医療機関との情報共有が必要である。</p>	

タイトル	妊娠期にある母親への参加型健康支援教育に関する研究（第2報） —大津市妊婦健康教室の母親の現状—
報告学会名	第48回滋賀県公衆衛生学会
発表者名	○原田真弓 1)、田邊紗世 1)、廣瀬明日香 1)、古川洋子 2)、 岡野久美子 3)、北村敦 3)、荒川遙 3)、白石智子 3)、渕元純子 4) 1) 中すこやか相談所、2) 滋賀県立大学、3) 健康推進課、 4) ふちもと助産院
<p><要旨></p> <p>大津市は子育て世代の転入率が高く、育児不安や負担を感じる母親も増していると考えられる。そこで、妊婦が参加する健康教育から課題を抽出した。在住年数が短いほど近所付き合いがなく、家族以外の相談者がいない母親が多くを占めた。また、いずれの母親も産後の生活や乳児との生活についてイメージを持っていない現状があった。地域の情報発信、情報交換の場、産後の生活の情報提供、仲間づくりを強化できる健康教育の運営が必要であることが示唆された。</p>	

タイトル	大津市における胃がんリスク検診（胃の健康度検査）5年間のまとめ
報告学会名	第48回滋賀県公衆衛生学会
発表者名	○木本知子 1)、小山佳代子 1)、中村寛子 1)、中村由紀子 2) 1) 健康推進課、2) 大津市保健所
<p><要旨></p> <p>大津市では、「胃がん検診（胃部エックス線検査）」の受診率向上のためA群と判定された人を胃がん検診につなげる目的で胃がんリスク検診（胃の健康度検査）を平成24年10月から開始した。対象者は年度年齢41歳・46歳・51歳・56歳・61歳の市民で、血清ペプシノゲン検査と血清ヘリコバクター・ピロリ菌抗体価検査を行っている。受診率は5年間で13.5%であり、検診開始当初から徐々に受診率は下がっている。検診結果はA群75%・B群15%・C群10%であった。要精密検査となるB群・C群の約80%が精密検査受診につながり、そのうちの80%以上が除菌治療に結びついた。また、精密検査結果では、早期がん・進行がんが22名発見され、外科的治療に結びついていた。この結果からもB・C群の結果で精密検査を受診していない人に対して、精密検査受診の勧奨をしっかりと行い、早期に医療に結びつける必要がある。しかし、検診開始時当初の目的の「A群の結果だった人が翌年胃がん検診を受ける」については、全体の4%で「胃がんリスク検診（胃の健康度検査）」が胃がん検診受診率の向上に寄与したとは言えなかった。</p>	

タイトル	大津市胃がんリスク検診の成果と報告
報告学会名	第 16 回大津消化器疾患研究会
発表者名	健康推進課 木本知子
<p><要旨></p> <p>大津市では、「胃がん検診（胃部エックス線検査）」の受診率向上のためA群と判定された人を胃がん検診につなげる目的で胃がんリスク検診（胃の健康度検査）を平成 24 年 10 月から開始した。対象者は年度年齢 41 歳・46 歳・51 歳・56 歳・61 歳の市民で、血清ペプシノゲン検査と血清ヘリコバクター・ピロリ菌抗体価検査を行っている。受診率は 5 年間で 13.5%であり、検診開始当初から徐々に受診率は下がっている。検診結果はA群 75%・B群 15%・C群 10%であった。要精密検査となる B 群・C 群の約 80%が精密検査受診につながり、そのうちの 80%以上が除菌治療に結びついた。また、精密検査結果では、早期がん・進行がんが 22 名発見され、外科的治療に結びついていた。この結果からも B・C 群の結果で精密検査を受診していない人に対して、精密検査受診の勧奨をしっかりと行い、早期に医療に結びつける必要がある。しかし、検診開始時当初の目的の「A 群の結果だった人が翌年胃がん検診を受ける」については、全体の 4%で「胃がんリスク検診（胃の健康度検査）」が胃がん検診受診率の向上に寄与したとは言えなかった。</p>	

タイトル	大津市子ども発達相談センター開設 2 年の現状報告
報告学会名	第 58 回日本児童青年精神医学会
発表者名	子ども発達相談センター 龍田直子
<p><要旨></p> <p>全国的に、安定性と継続性を備えた「地域発達支援システム」の構築が求められていることを踏まえ、母子保健と教育との連携強化、教育相談センターとの併設、医師の常駐、地域連携、などの特徴を備えた、大津市子ども発達相談センターの開設の経緯や、開設 2 年の実績（医師相談を中心に）について、考察を添えて報告した。</p>	

タイトル	大津市子ども発達相談センターの現状と課題
報告学会名	第 66 回近畿医師会連合学校医研究協議会総会
発表者名	子ども発達相談センター 龍田直子
<p><要旨></p> <p>発達障害児は、集団生活である学校において様々なストレスを抱えやすく、彼らへの理解と支援は学校保健の大切なテーマである。大津市子ども発達相談センターの実績から、相談支援を低年齢から開始し、親子関係や学校生活を支えることで、成長後のいわゆる二次障害の予防に寄与することの重要性を報告した。</p>	

【講演等報告】

タイトル	大津市地域リハビリテーションサポーター会議での取り組みについて
発表者名	保健総務課 西山直樹
講演会・研修会名	平成 29 年度地域リハビリテーション研修会
対象者及び参加人数	30 人
年月日	平成 29 年 12 月 25 日
主催者	滋賀県立リハビリテーションセンター
<p><要旨></p> <p>当研修会は県内市町の地域リハの取り組み状況を共有し、地域リハ、行政各課・関係機関の連携推進を目的に開催。大津市からは市内リハビリテーション専門職（理学療法士、作業療法士、言語聴覚士）による取り組みを報告した。</p>	

タイトル	大津市における在宅医療・介護連携の取り組み状況
発表者名	保健総務課 坂口和代
講演会・研修会名	滋賀県医療介護連携担当者情報交換会
対象者及び参加人数	県内市町医療介護連携担当者及び保健所担当者 50 人
年月日	平成 29 年 4 月 28 日
主催者	滋賀県医療福祉推進課
<p><要旨></p> <p>平成 27 年度より開始された在宅医療・介護連携推進事業および在宅医療体制整備等について本市の取り組み内容を報告した。</p>	

タイトル	大津市における地域包括ケアに向けた取り組み ～医療福祉の現状と多職種連携の取り組みの現状～
発表者名	保健総務課 坂口和代
講演会・研修会名	平成 29 年度第 1 回第一地区支部研修会
対象者及び参加人数	滋賀県在勤・在住の看護職 65 名
年月日	平成 29 年 6 月 24 日
主催者	滋賀県看護協会第 1 地区（大津地区）支部
<p><要旨></p> <p>地域包括ケアを実現するための在宅医療介護連携及び在宅医療の充実において、各分野における看護職が軸となり支援ネットワークを構築することの重要性及びそのための本市の関連事業について紹介した。</p>	

タイトル	病院から在宅へ、シームレスな療養を支援するための看護職の役割
発表者名	保健総務課 坂口和代
講演会・研修会名	「病院から在宅へ、シームレスな療養を支援するための看護職の役割」 (ラダー研修 I～IV)
対象者及び参加人数	滋賀県在勤・在住の看護職 108名
年月日	平成 29 年 11 月 29 日
主催者	滋賀県看護協会
<p><要旨></p> <p>地域包括ケアを実現するための在宅医療介護連携及び在宅医療の充実において、各分野における看護職が軸となり支援ネットワークを構築することの重要性及びそのための本市の関連事業について紹介した。</p>	

タイトル	大津市の在宅医療・介護連携の取組と今後について
発表者名	保健総務課 坂口和代
講演会・研修会名	在宅医療・介護連携事業推進のための市町職員研修
対象者及び参加人数	60名
年月日	平成 30 年 3 月 12 日
主催者	兵庫県健康福祉部少子高齢局高齢対策課
<p><要旨></p> <p>兵庫県における、第 7 期介護保険事業計画を踏まえた在宅医療・介護の連携推進に向け、各市町の担当者が取り組むべく方向性を明らかにするための研修において、本市における入退院調整ルールへの運用、訪問看護ステーションの充実等、在宅医療・介護連携及び在宅医療の体制整備の現状と今後の展望について報告した。</p>	

タイトル	自殺未遂者をどう支援するか～大津市「いのちをつなぐ相談員」派遣事業の経験から～
発表者名	保健予防課 奥田由子、中村瑞枝
講演会・研修会名	湖西圏域未遂者支援従事者研修会
対象者及び参加人数	湖西圏域で自殺未遂者支援に関わる従事者 37名
年月日	平成30年1月17日
主催者	高島保健所
<p><要旨></p> <p>大津市の自殺未遂者支援の結果、未遂者支援の必要性及び未遂者支援をする上で必要な支援関係づくりと環境調整について講演した。</p>	

タイトル	自殺未遂者をどう支援するか～大津市「いのちをつなぐ相談員」派遣事業の経験から～
発表者名	保健予防課 奥田由子
講演会・研修会名	平成29年度地域精神保健福祉担当者研修会
対象者及び参加人数	44名（道内各保健所職員：35名、北海道立精神保健福祉センター、障害者保健福祉課、自殺対策推進センター職員：9名）
年月日	平成30年3月1日
主催者	北海道立精神保健福祉センター
<p><要旨></p> <p>未遂者支援の必要性、未遂者支援をする上で必要な支援関係づくりと環境調整についてを事例を通して講演した。</p>	

タイトル	地域に責任を持つ保健師活動～地区担当制を通じた人材育成～
発表者名	膳所すこやか相談所 藤本亜由美
講演会・研修会名	平成 29 年度 全国保健師交流集会
対象者及び参加人数	日本看護協会会員及び非会員 参加人数 223 人
年月日	平成 29 年 6 月 8 日 (木)
主催者	公益社団法人日本看護協会
<p><要旨> 東京ベイ幕張ホールにて開催 シンポジウム「もう一度地区活動～PDCA サイクルにもとづいた戦略的展開～」</p> <p>【内容】 1、地区担当制の推進とは 2、本市の保健活動体制 3、地域に責任をもつ保健師活動とは 4、地域に責任を持つ保健師活動への人材育成 5、保健師が推進する地域包括ケアのシステム構築を目指しての5つの柱で報告した。</p> <p>【要旨】 すこやか相談所の整備及びあんしん長寿相談所を直営ですこやか相談所に設置した背景、地区担当制の保健師活動、組織的な保健師の人材育成、域包括ケアシステムの構築を保健と福祉の保健師が連携することで効果的に進めていること、すこやか相談所の活動の一部が「子ども子育て包括支援センター」の機能となることから新たにセンターを設置するのではなく、すこやか相談所を地域保健活動の拠点として更に強化していくことを目指していること等を報告した。 また今後の課題として、地域包括ケアシステムは今後あらゆる世代を対象としたケアシステム構築が課題となっており、世代や対象別の支援体制の構築が地域を分断するものではなく、地区担当制の推進につながるケアシステムの構築とするためには、地域を診断し地域を看護する保健師の専門性を育てる人材育成が必要であり、保健師が組織横断的に連携しながら住民の生活と健康課題を総合的に判断し、包括的に支援する保健師活動につなげていくことを報告した。</p>	

タイトル	全国保健師長会研修会報告
発表者名	膳所すこやか相談所 藤本亜由美
講演会・研修会名	統括保健師会議および研修会
対象者及び参加人数	県内自治体の統括保健師及び統括保健師補佐 他 参加人数 37 人
年月日	平成 30 年 2 月 7 日 (水)
主催者	滋賀県看護協会
<p><要旨> 滋賀県看護研修センターにて開催</p> <p>【要旨】 全国保健師長会研修会（新潟県で開催）のプログラムから、「現状分析に基づく目標設定と保健活動の成果・効果の可視化」新潟県立大学人間生活学部教授 田邊直仁教授の講演を伝達した。 また、全国保健師長会健康日本 21 の推進に関する特別委員会の調査研究「部署横断的連携と活動により、新しいニーズに対応した保健活動確立のための研究～健康日本 21（第 2 次）の推進・地域包括ケアの推進～」の報告及び、日本看護協会「平成 29 年度厚生労働省 先駆的保健活動交流推進事業 ポピュレーションアプローチにおけるプロセスとアセスメントの実際～効果的なポピュレーションアプローチに向けて～」について報告した。</p>	

タイトル	発達障害をもつ子どもたちへの支援を考える
発表者名	子ども発達相談センター 龍田直子
講演会・研修会名	平成 29 年度 夏季公開研修会
対象者及び参加人数	高校、特別支援学校、保育園、幼稚園、小中学校の教職員 約 60 人
年月日	平成 29 年 7 月 26 日
主催者	滋賀県立北大津養護学校
<p><要旨></p> <p>発達障害に関する基本的知識と、子どもの抱える問題に対する見立てや支援の基本について、モデル事例も添えて講演を行った。支援の最終目標は、大人になったときの精神的な健康であり、児童期はそれを見据え、自他に対する信頼感や自己理解、対処力を育む時期であることの共通理解を図った。</p>	

タイトル	情緒や発達に課題をもつ子どもへの医療的支援について
発表者名	子ども発達相談センター 龍田直子
講演会・研修会名	平成 29 年度 特別支援教育リーダー研修
対象者及び参加人数	保育園、幼稚園、小中学校教員 69 人
年月日	平成 29 年 10 月 21 日
主催者	大津市教育センター
<p><要旨></p> <p>子どもの発達や情緒的課題に対する医学的判断は非常に重要であるが、発達障害児支援は、医療のみで完結するものではなく、医療、福祉、教育、保健等の相互連携の上に成り立つものである。そういった支援に関する基本的な考え方や、診断や薬物療法など医療的支援について、教育関係者の適切な理解につながることを目的に講演を行った。</p>	

タイトル	1・子どもの成長と心の発達 2・子ども理解を深めるために～ 子どもの気になる姿・かかわり・障害理解について
発表者名	子ども発達相談センター 平野美香
講演会・研修会名	平成 29 年度 ファミリーサポートセンター 講習会
対象者及び参加人数	ファミリーサポートセンター会員、市民 各回 約 30～40 人
年月日	1 回目 平成 29 年 7 月 12 日、2 回目 平成 29 年 9 月 14 日
主催者	大津市ファミリーサポートセンター
<p><要旨></p> <p>大津市ファミリーサポートセンターでは、市民や会員向けに、子育ての知識を得られる公開での講習会や会員交流会を年間 13 回実施している。そのうちの 2 回において、幼児期の子どもの発達、障害や支援についての理解を深めることを目的に講習会の講師を担当した。</p>	

タイトル	子どものこころの発達～子ども理解を深めるために
発表者名	子ども発達相談センター 平野美香
講演会・研修会名	平成 29 年度 児童クラブ指導員 全体研修会
対象者及び参加人数	公立および民間児童クラブの指導員 約 120 人
年月日	平成 29 年 11 月 21 日
主催者	大津市児童クラブ課
<p><要旨></p> <p>児童クラブは、家庭と学校の間時間を過ごす場として、独自の学齢期保育の工夫が必要である。また、障害児も受け入れ、それ以外にもさまざまな支援を必要とする児童も増えており、保育や保護者支援のあり方は、担当課主催の巡回相談、ケース会議、部会等の学習を通じて指導員間で共有しているが、今回は、児童期の発達と、発達障害特性のある児の支援についての理解を深める一助となるように講演を行った。なお、H30 年 3 月 7 日の実践交流会のレポート発表の講評も担当した。</p>	

タイトル	「弾むこころとからだを受けとめて」～おとながつなぐ笑顔の輪～
発表者名	子ども発達相談センター 松原巨子
講演会・研修会名	やまびこ園・やまびこ教室保護者学習会
対象者及び参加人数	療育利用中の保護者・療育教室職員 約 60 人
年月日	平成 29 年 5 月 23 日
主催者	大津市立やまびこ園・教室
<p><要旨></p> <p>やまびこ園・教室に入園後の保護者全員が初めて集う学習会</p> <p>① 療育が目指す発達保障の取り組みの説明。親子に「安心できる生活と笑顔になれる遊び」を届ける療育で、親も子も「個として大切にされ」「仲間の中で育ちあう」ことをめざす。</p> <p>② 子どもの発達の捉え方は「その子らしさや好きなこと」が発揮される集団と働きかけがあれば、子どもは発達するという。子育てでは、親が少し楽になるために心に留めて欲しいこと。</p> <p>③ 「大津市方式」という市全体の発達保障システムは、子どもと保護者・市民の願いと関係各職員との協同の成果であり、今後の発展のために多くの方が力を合わせていく必要があること。</p>	

タイトル	「大津市民にとっての大津方式とは」 ～一人ひとりが個として大切にされる社会をめざす自治体としての歩み～
発表者名	子ども発達相談センター 松原巨子
講演会・研修会名	大津市児童発達支援療育事業・職員学習会
対象者及び参加人数	児童発達支援療育・職員 約 70 人
年月日	平成 29 年 10 月 2 日
主催者	大津市立やまびこ総合支援センター
<p><要旨></p> <p>やまびこ園・教室、北部子ども療育センター・東部子ども療育センターの職員合同研修会</p> <p>① 公務員としての職員は、親と子への発達保障実践を通じ、障害者・発達障害者・発達支援を必要とされる方々が「個として」大切にされる社会を目指す理念を市民と共有していく役割がある。</p> <p>② 子どもの発達の捉え方と親への支援のあり方、親への支援では、息長く大らかにその人らしさを尊重した支援となって欲しい。</p> <p>③ 大津方式を作り上げてきた中核となる療育事業に携わる職員として、今後の大津方式を発展させていく仲間が力を合わせるための協同を広げよう。</p>	

タイトル	「大津市の保育園が大切にしていること」 ～子どもを守る大人がつなぐ笑顔の輪～
発表者名	子ども発達相談センター 松原巨子
講演会・研修会名	大津市北部保育園・保護者学習会
対象者及び参加人数	大津北部の保育園障害児保育利用中の保護者・保育園職員 約 20 人
年月日	平成 29 年 10 月 24 日
主催者	大津市立保育園・北部の保育園共催
<p><要旨></p> <p>大津市北部の公立保育園が協力して開催している障害児保育対象児の保護者の学習会</p> <p>① 大津市として大切にしてきた「保育の願い、子育てへの願い」を伝え、保護者と保育者の協力を。</p> <p>② 子どもの発達の捉え方は「その子らしさや好きなこと」が発揮される集団と働きかけがあれば、子どもは発達するという。「一人ひとりが大切にされ、仲間と共に育ちあう」こと。</p> <p>③ 「大津市方式」という発達保障システムと「障害児保育」制度は全国に先駆け子どもと保護者・市民の願いにより開始され作り上げた。それに応え保育士が「個として大切に」「仲間の中で育ちあう」という実践を豊かにしてきた。今後の発展のために多くの方が力を合わせていく必要があること。</p>	